

# 元気！活方！人方！

ひと

尾崎酒造 〓 新宮市船町

## 尾崎 征朗社長 (62)



酒蔵のすぐ北側が熊野川という環境に恵まれ、熊野川の伏流水と、川面を渡ってくる厳冬の北風が日本酒造りにぴったりという。

「熊野川の伏流水の井戸水は口を含むと甘みがあり、そのせいで酒自体も甘口と思われるのです」

尾崎酒造は熊野地方で唯一の蔵元。明治時代から続く「太平洋」ブランドのほか、良質の酒類を生産し続け、高い評価を得ている。新宮市出身の作家、佐藤春夫や中上健次もこの酒を愛飲したことは地元ではよく知られている。

創業は明治13年。「それ以前も細々と酒を造っていたらしいのですが、明治13年ごろから本格的に酒造りを始めたのです」と話すのは6代目の尾崎征朗社長。酒蔵は熊野三山のひとつ、熊野速玉大社のごく近くにあり、

### 熊野地方で唯一の蔵元

## 地域にこだわり商品づくり



良質の酒類として知られる尾崎酒造の製品

以外の地域からも要請を受けない、太地町用には、「本醸造なつた」と笑う。勇魚」を、また、串本町用には「潮岬」を生産するなど、地域ごとの特色をもった酒造りにも挑んでいる。現在、酒のブランドは約20種類にも及ぶ。

それだけ力を入れている日本酒だが、全国的な消費量の減少はやはりここでも変わりはない。日本酒の売り上げが最も多かったのは10年ほど前で、それからだんだん少なくなってきたという。

「以前は私と飲みに行った友達は私に遠慮して日本酒を頼んでいたのに、今では遠慮は、今回でおわりませう。」

〓 「元気！活方！人方！」 (袖中陽一)

2006.7.26

産経新聞より

economy